

2015.7.27号

・首都圏の骨材事情 秋口に向け値上げ交渉

首都圏の骨材需要は湾岸地区など一部を除くと、低調に推移。また、骨材の値上げ交渉も難航している。骨材業者は、若手運転手の確保、生産コストの上昇分の補てん、跡地整備資金と資源開発資金の確保を理由に交渉を継続する。骨材生産、販売、輸送業者を取材した。

・共栄運輸「第三共栄丸」20日に就航、東京湾内の山砂輸送担う

共栄運輸(千葉県木更津市、平井秀幸社長)の新造ガット船「第三共栄丸」が今月20日から東京湾内に就航した。千葉の山砂の海上輸送を担うガット船の老朽化するなかで、同社は13年から約5年の間にガット船10隻の新造を計画しており「第三共栄丸」は新造二号船。総トン数499トン、載貨重量1600トン。昨年12月に就航した「第一共栄丸」と同様のスペックや工程で建造した。

2015.7.13号

・静岡県砕石業協同組合、三団体技術者交流会で高炉スラグ等との3種混合再生材を提案

静岡県砕石業協同組合(井上光由理事長)は6月26日、伊豆市のコマツテクノセンタおよび組合員の木村土木・中伊豆工場で静岡県アスファルト合材協会、静岡県道路舗装協会と年次の「三団体技術者交流会」を開催した。県内の再生材(再生下層路盤材等)には数量および品質確保のためバージン材が7割以上混入されており、特に伊豆地区は賦存する原石の品質が不安定なこともあり砕石工場が減少。コンクリートやアスファルトからの発生量も少ないため再生材の安定供給が懸念される。研修会では有限の砕石資源の延命と副産物の有効利用のため、代替材料として既存の再生盛土材に石灰で安定処理した建設発生土(残土)と高炉スラグを混合した3種混合再生材の生産デモンストレーションを実施。三団体の関係者に加え、県や県内3市の担当者等約150人が参加した。

・ACRAC15年度総会、北海道で大手生コン・製品会社加入

再生骨材コンクリート普及連絡協議会(ACRAC、柴谷啓一会長)は6月30日、都内で15年度総会および意見交換会を開催した。今年度から未加入地区だった北海道で越智産業(苫小牧市)とケイホク(白老郡白老町)が加入して北海道地方支部を組織。NTTグループ協力会社の近畿電電輸送(大阪市天王寺区)も加入を予定し、会員は23社に増加する見込みだ。全国団体として品質監査制度の充実により供給体制を整備。引き続き行政に対し、再生骨材(および再生骨材コン)の土木・建築の仕様書への明記、グリーン購入法特定調達品目への追加をはたらきかける方針だ。